

新秋地総第 5 4 8 号
令和 8 年 6 月 2 6 日

秋葉区自治協議会会長
渡邊 彩 様

新潟市秋葉区長 長崎 忍
(秋葉区役所地域総務課)

区政運営にかかる評価について（参考意見聴取）

本市では、年度当初に区長による「区組織目標」を策定し、その方針に基づいて、区政運営の重点取組事項を設定しています。また年度末には、その取り組みに対して、区長による自己評価を行い、次年度以降の方針策定等に反映させております。

この自己評価を補うとともに、効果・効率的な事業実施や次年度予算の編成の参考にさせていただくため、貴自治協議会に下記事項について区長が行った自己評価に対する意見を求めます。

記

- ・ 令和 7 年度 秋葉区組織目標
- ・ 令和 7 年度 秋葉区組織目標 重点項目に係る各課の取組

資料 1 - 1

資料 1 - 2

※参考資料

- ・ 令和 8 年度 秋葉区組織目標
- ・ 令和 8 年度 秋葉区組織目標 重点項目に係る各課の取組
- ・ 令和 8 年度 秋葉区組織目標 重点項目に関連する主な SDG s ゴール

資料 1 - 3

資料 1 - 4

資料 1 - 5

- ・ SDG s と新潟市総合計画 2 0 3 0 との関係

資料 1 - 6

令和7年度 秋葉区組織目標

組織名	秋葉区	区長	長崎 忍
組織の目的・方向性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かしたまちづくりを推進します。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標※	・職業を理由とした県外との転出入数 ・市民の声をしっかりと聴く体制が整っていると思う市民の割合 ・新潟市は子育てしやすいまちだと思う保護者の割合 ・観光入込客数 ・地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

秋葉区では、新潟市総合計画 2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。

この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性或魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、「移住フェア」などの開催による移住促進に取り組みます。
また、秋葉区内を走る区バス・金津線・下新線について、こどもや若者が気軽に利用できる機会を創出し利用促進を図ることで、地域全体で支える持続可能な公共交通ネットワークを構築します。
- 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。
- 3 こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。
- 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。また、新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。
- 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区 SDGs トライとして市民と協働で行います。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況				
	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	2
取組結果	【重点目標１】達成状況＝達成 「アキハスムプロジェクト」 ・ 8 月にフィールド体験ツアーを開催し、収穫体験やにいつ夏祭りに東京農業大学の学生などが参加し関係人口の創出を図りました。 ・ 東京農業大学で開催された「農大グランマルシェ」や、明大前商店街フェスに秋葉区ブースを出店するなど首都圏での移住・交流・関係づくりを行いました。 ・ 12 月に AKIHA 移住コミュニティミーティングを開催し、区で活躍している人や関心のある人たち 30 人が参加し、情報交換を行いました。 「こども・若者公共交通乗車促進事業」 ・ 対象路線バスの学生運賃割引等の推進により、年間利用者が 5,652 人となり、目標数を上回りました。				
	【重点目標２】達成状況＝未達成 ・ 前期アンケート結果 平均評価点 4.37 点 各評価項目とも平均評価点 4.2 点以上、昨年度前期アンケートの平均評価点 4.34 点から向上 ・ 後期アンケート結果 平均評価点 4.56 点 各評価項目とも平均評価点 4.4 点以上、昨年度後期アンケートの平均評価点 4.47 点から向上 課題であった接遇に関する評価については、改善傾向となりました。窓口アンケート結果をもとに課題を共有し、改善策の検討・実施につなげました。 【重点目標３】達成状況＝達成 ・ こどもの居場所づくりについて、金津コミュニティ振興協議会や金津小・中学校等と連携しながら、既存施設を活用して計 7 回の居場所づくりを開催し、延べ 207 人の児童・生徒が参加しました（1 回当たり平均 29.6 人）。11 月及び 12 月は近隣でクマ出没のため中止しましたが、それ以外の各月については、予定どおり開催し、こどもたちに様々な遊びや学びを提供しました。 【重点目標４】達成状況＝一部未達成 ●里山未来創造事業（マウンテンプレイパーク） ・ 25 回開催、872 人（平均 34.9 人）が利用しました。 ・ SNS を活用した発信に加え、新たな PR チラシを継続配布し広報を行いました。 ・ 前期は目標以上の利用者数でしたが、夏場の猛暑日、クマの出没情報等の影響から屋外での活動が避けられたため著しく利用者が減少しました。 ●廃止石油坑井封鎖事業 ・ 有識者会議の意見を踏まえ、小口地区の井戸 1 か所の封鎖を 7 月に完了しました。今後は、朝日地区にある 4 か所の石油井戸の封鎖作業に取り組みます。 ●アキハ大麦・小麦・もち麦推進 ・ 小麦生産者・関係団体の合同研修会（8 月）の開催を支援しました。（37 名参加） ・ 各種イベントへの出店、小中学校の総合学習や学校給食メニュー、商品開発、秋葉区パンまつり等による秋葉区産麦類の周知に努めました。 ●花まる鉢花推進事業・園芸推進事業 ・ 鉢花見本市を開催し、買参人等関係者向け WEB 版見本市の運営を行いました。 ・ 新日本海フェリー船内・ターミナルにおいてアザレアを展示しました。 ・ 日本ボケ展を開催しました。 ・ 若年層への普及を目的とした親子園芸講習会を開催しました。（20 組 40 名参加） ●アキハ「鉄道物語」				

	・ J R、商店街連合会、観光協会、鉄道資料館等、関係者との連携により観光案内所、レンタサイクルの運営を行うとともに、S Lばんえつ物語 100 万人乗車達成のイベント等を実施しました。 ・ S L運行日における観光案内所開設時間の拡大を継続して実施しました。 ・ S L運行日や特別列車運行日のお見送り、お出迎えの回数を増加させることで秋葉区の観光P R及び観光案内所の周知、利用者サービスの向上に努めました。 ・ 新津駅を中心とした鉄道のまちをP Rすることで交流人口の拡大を図るとともに、首都圏イベントへの出店を行い、地元物産の販路拡大と関係人口の創出に努めました。 ●新潟薬科大学等との連携事業 ・ 新潟薬科大学等の教員、学生との連携、各種団体の協力等により新潟薬科大学キャリア形成実践演習を実施しました。 ・ 10 事業を計画しましたが、クマの出没情報等により一部が中止となりました。 【重点目標 5】達成状況＝一部未達成 ・ 「秋葉公園魅力アップ事業」で支障木・危険木の伐採を行い、伐採木を利用し、ウッドチップを作成しました。また、伐採木の利活用について、秋葉公園クリーン作戦にて市民協働での環境整備に取り組む予定であったが、丘陵部でのクマの目撃情報の増加、及び、新潟県が熊出没特別警報を発表したことから市民協働での環境整備は中止とし、業務委託にて秋葉公園内にウッドチップを敷き詰めました。 ・ 区職員を対象とした区長研修プロジェクト「クヤクショソーシング」により、秋葉公園のリニューアルコンセプト（案）の実施検討を行い、桜の植樹位置を検討しました。
今後の方向性	【重点目標 1】 ・ 区民主体によるまちづくりを推進するため、秋葉区の特長・魅力をブランド化し発信することによるシビックプライドの醸成を図るとともに、首都圏等の大学生を対象とした「フィールド体験ツアー」を開催し交流・関係人口の創出に取り組めます。 【重点目標 2】 ・ 窓口対応などの課題について効果的な改善策を講じ、検証を行うため、継続してアンケートを実施し市民満足度の一層の向上に取り組めます。 【重点目標 3】 ・ こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、今年度試行実施で判明した課題等を検証し、令和 8 年度は、開催地区を 5 地区に拡大し、引き続き、各コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを実施します。 ・ 児童館の設置について、既存施設の「新津健康センター」を有効活用し、令和 8 年秋ごろのオープンを目指して準備を進めます。 【重点目標 4】 ・ 広報の強化、事業運営などの改善検討を行い、次年度の企画に反映させることで、各利用者の増を図ります。 ・ 各種関係先との連携を継続するとともに、新たな関係先、連携の形を検討することで事業の継続、拡充に努めます。 【重点目標 5】 ・ 市民協働による環境整備活動 市民協働での環境整備活動に多くの方々に参加いただき、持続的な活動を実現するためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要で

- | | |
|--|---|
| | <p>す。関係団体と連携し、多方面での広報・周知活動を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き秋葉公園の魅力アップに資するよう、本年度作成したウッドチップを公園園路に敷き詰め、環境整備を推進します。・秋葉公園リニューアルコンセプト（案）で整理した内容を踏まえ、区民と一緒に桜の植樹等を行い、「映えスポット」を創出します。 |
|--|---|

令和7年度 秋葉区組織目標 重点項目に係る各課の取組

No.	担当課	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)			
1	地域総務課	「アキハスムプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、「移住フェア」などの開催による移住促進に取り組みます。	政策11-1-① 政策11-1-③	移住検討者を対象とした相談会や体験会の開催(3回) 移住コンシェルジュの人的ネットワーク構築と会議開催(12回)	15回	15回	アキハスムプロジェクト<移住フェア> ・AKIHA移住コンシェルジュによる移住検討者への相談対応のほか、秋葉区の魅力や特色も併せて発信します。 ・移住相談窓口を市特設webサイトやSNSにより情報発信します。 ・ネットワーク構築により相談者への対応を強化します。	○	・8月にフィールド体験ツアーを開催し、収穫体験やにいつ夏祭りに東京農業大学の学生などが参加し関係人口の創出を図りました。 ・東京農業大学で開催された「農大グランマルシェ」や、明大前商店街フェスに秋葉区ブースを出店するなど首都圏での移住・交流・関係づくりを行いました。 ・12月にAKIHA移住コミュニティミーティングを開催し、区で活躍している人や関心のある人たち30人が参加し、情報交換を行いました。 ・移住コンシェルジュとは定期的なミーティングを行うことで、情報の共有と事後の展開を絶えず目合わせし、以後の対応に活かしました。	・プロジェクト本来の主旨を改めて再定義・再認識したうえで、プロジェクトをさらに推進して、区民の地域に対する愛着心の醸成を図りながら、まちづくりを主体的に実践する人材や団体の育成を進めます。 ・主に首都圏の大学生を対象に、農業や産業体験などを組み込んだ「フィールド実習ツアー」の実施を念頭に、加えて祭りなどの地域の伝統行事にも参加してもらうなかで、多面的に秋葉区の魅力を伝えることにより、学生の理解と愛着を深め、継続的な交流や再訪といった関係人口の拡大、そして将来的な移住検討につなげます。 ・移住コンシェルジュの特性を活かした情報発信を継続し、移住に関する多様な相談の受け皿としていきます。
2	地域総務課	秋葉区内を走る区バス・金津線・下新線について、子どもや若者が気軽に利用できる機会を創出し利用促進を図ることで、地域全体で支える持続可能な公共交通ネットワークを構築します。	政策14-1-②	対象路線バスを利用した学生の乗車人数	4,400人以上	5,652人	子ども・若者公共交通乗車促進事業 ・対象路線バスの運賃を、中学生以上の学生を100円、小学生を50円で乗車できるようにします。 ・利用促進を図るため、区内の学校にチラシを配布し、区だよりやSNSなどでモデルプランを掲載します。	○	・年度末の学生乗車人数が5,652人となり、目標を上回りました。 秋葉区バス 1,976人 金津線 1,282人 下新線 2,394人	・学生の継続利用を促し、乗車人数全体を増やして持続可能な公共交通を目指します。
3	区民生活課	日常業務の改善を進めるとともに、効率的な業務を行うため、職員提案を促し窓口業務の改善に努め、市民満足度の一層の向上を図ります。	行財1-1-①	窓口アンケートの実施 窓口アンケートの平均点(点)	平均点4.5点以上	平均点4.47点	窓口アンケートの実施 窓口アンケートにより、市民ニーズを把握し市民満足度の向上を図ります。	×	前期アンケートの平均評価点は4.37点、後期アンケートの平均評価点は4.56点であり、後期では目標値である平均4.5点以上を達成しました。課題であった接遇に関する評価についても改善傾向が見られました。窓口アンケートの結果をもとに課題を共有し、改善策の検討及び実施につなげました。	引き続き窓口アンケートを実施し、市民ニーズや課題の把握に努めるとともに、課内で情報共有を図りながら改善策の検討及び実施を行い、更なる市民満足度の向上につなげます。
4	健康福祉課	子ども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域の子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。	政策4-1-⑤ 行財3-2-②	居場所に参加する1回当たりの児童・生徒の平均人数	20人 (合計180人)	29.6人 (合計207人)	・アキハ移動式こどもの居場所づくり事業 ・金津コミュニティ振興協議会、金津小・中学校等と連携しながら、既存施設を活用し、安心・安全に過ごせる新たな居場所づくりを行い、子どもたちに様々な遊びや学びを提供します。	○	・7月から10月、1月から3月の各月1回、計7回実施し、7月41人、8月39人、9月30人、10月45人、1月10人、2月28人、3月14人の延べ207人が参加しました。 ・11、12月は近隣でクマ出没のため急遽開催を中止しました。 ・試行実施で明らかになった課題としては、1、2月の休日開催の参加者が伸びませんでした。休日は、習い事や家族でお出かけなどの理由から参加が難しいため、平日開催を望む声が多くありました。また、10月金津小学校体育館での開催が好評で、開催場所についても体育館を望む声が多数寄せられました。	・今年度試行実施で判明した様々な課題を検証し、それをもとに事業内容の見直しを図ります。 ・次年度は、開催地区を5地区に拡大し、引き続き、各コミュニティ協議会と連携を図りながら、より多くの子ども達が参加しやすい居場所づくりを実施します。

No.	担当課	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要		
5	産業振興課	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	政策5-1-②	Akihaマウンテンプレーパークの1日平均利用者数(人)	43人	35人	・里山未来創造事業	里山にある秋葉公園の自然を活かした、子ども達が自由に遊べる場「Akihaマウンテンプレーパーク」を開設します。 ・SNS等を活用した子育て世代への発信力の強化 ・体験会や利用者アンケートの実施	△	・開設:25回、利用者:872人(平均34.9人/日)。 ※11月以降は熊の出没情報などにより一部中止 ・SNS発信に加え、新たなPRチラシの配布(学校)等、広報を強化しました。 ・体験会の他、利用者のニーズ調査を実施しました。
			政策10-1-②	観光案内所「あ！キハ」1日平均利用者数(人)	73人	92人	・アキハ「鉄道物語」	JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携した観光案内所(新津駅東口)を開設します。 ・レンタサイクルの貸し出し ・鉄道資料館との連携企画の実施 ・鉄道に関連した取り組みや事業への支援		・SL運行日の観光案内所開設時間拡大を継続しました。 ・SL運行日や特別列車運行日のお見送り(お出迎え)回数を増やしました。
6	産業振興課	緑豊かな里山や河川などの恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な財産と捉え、人と自然が調和した美しい景観の保全と活用を図ります。		廃止石油坑井封鎖事業	調査検討実施	同左	・廃止石油坑井封鎖事業	有識者会議の意見を踏まえながら、石油井戸の封鎖に向けた測量や工事方法などを検討し、事前調査と関連工事を実施します。	○	・有識者会議の意見を踏まえ、小口地区の井戸(1本)の封鎖を完了しました。
7	産業振興課	稼げる農業の実現に向けて、生産者や関係団体と連携し、国産の需要が見込まれる麦類への作付け転換を進めることで、水田を最大限活用して収益の確保を図ります。	政策9-1-⑤	麦類(大麦・小麦・もち麦)の栽培面積(ha)	32ha	35.6ha	・アキハ大麦・小麦・もち麦推進	小麦の会や生産者による研修会等の開催を支援するとともに、消費拡大につなげる取組を実施します。 ・イベント出店 ・小学校総合学習や学校給食 ・商品開発 ・パンまつり	○	・関係者による合同研修会の開催を支援しました。(37名参加) ・イベント出店、総合学習や学校給食、商品開発、パンまつり等による秋葉区産麦類の周知に努めました。
8	産業振興課	花木関係団体との連携による販路開拓やターゲットに合わせた各取組を展開します。	政策9-1-⑤	花木関係団体との連携による販売促進事業数	3事業	4事業	・花まる鉢花推進事業 ・園芸推進事業	各種関係団体との連携による展示PRや商談会の開催を支援します。	○	・鉢花見本市を開催し、買参人等関係者向けWEB版見本市の運営を行った。 ・新日本海フェリー船内・ターミナルにおいてアザレアを展示した。 ・日本ボケ展を開催した。 ・若年層への普及を目的に親子園芸講習会を開催した。
9	産業振興課	新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。	行財3-2-③	大学等との連携事業数	8事業	7事業	・新潟薬科大学等との連携事業	新潟薬科大学等の教員、学生との連携による事業を実施します。	×	・新潟薬科大学等の教員、学生との連携による事業を実施しました。 ※10事業を計画したが熊の出没情報などにより一部中止

No.	担当課	組織目標		指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ		取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
10	建設課	新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区SDGsトライとして市民と協働で行います。	行財3-2-②	参加人数(人)	400	60	人と自然が調和した美しい景観の保全	・市民と協働で遊歩道周辺や秋葉公園の除草や刈払いを実施 ・秋葉公園リニューアルコンセプト(案)を踏まえ親子や多世代が安心して楽しめる公園の創出	×	・市民協働による環境整備活動 「あきはSDGsトライ新津川クリーン作戦」などの環境整備活動を計3回計画し、60人が参加しました。 ◇あきはSDGsトライ新津川クリーン作戦:11月3日【中止】(雷注意報発令のため) ◇新津川水仙球根植栽:11月3日参加者60人 ◇あきはSDGsトライ秋葉公園クリーン作戦:11月16日【中止】(熊目撃情報のため) ・秋葉公園リニューアルに向けた取り組み 「秋葉公園魅力アップ事業」で、支障木の伐採や伐採木の利活用を試行しました。 職員研修(クヤクショソーシング)を活用して区内部での「秋葉公園リニューアルコンセプト(案)」を作成しました。	・市民協働での環境活動により多くの方から参加いただき、持続的な活動とするためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要です。関係団体と連携しながら多方面での広報・周知活動を進めます。 ・リニューアルコンセプト(案)を基に、地域関係者と一緒に、「にぎわいゾーン」を中心とした活性化や利便性向上に向けた検討を進めていきます。

令和 8 年度 秋葉区組織目標

組 織 名	秋葉区	部 長	長崎 忍
組 織 の 目 的 ・ 方 向 性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かしたまちづくりを推進します。		
(参 考) 関 連 する 総 合 計 策 指 標 ※	・ 職業を理由とした県外との転出入数 ・ 市民の声をしっかりと聴く体制が整っていると思う市民の割合 ・ 新潟市は子育てしやすいまちだと思ふ保護者の割合 ・ 観光入込客数 ・ 地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

秋葉区では、新潟市総合計画2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。 この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。 重点目標 1 コミュニティ協議会が作成した「コミュニティ未来ビジョン・アクションプラン」の実現に向けて、各コミュニティ協議会と協働で取り組みます。また、来年度の未来ビジョン見直しに向け、これまでのアクションプランを実績を総括し、次期ビジョンへと繋ぎます。 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。 3 こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。 (児童館開設。移動式こどもの居場所を5コミ協で開設) 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。具体的には、アキハ「鉄道物語」事業の展開を通じ、JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携して、鉄道に関連した企画の充実や鉄道サミットの開催に取り組みます。 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区SDGsトライとして市民と協働で行います。
--

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評 価

取 組 結 果	重 点 目 標 の 達 成 状 況	目 標 数	5	達 成 数	
今 後 の 方 向 性					

令和8年度 秋葉区組織目標 重点項目に係る各課の取組

No.	担当課	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R8標	R8結果	取組名称(事業名)			
1	地域総務課	コミュニティ協議会が作成した「コミュニティ未来ビジョン・アクションプラン」の実現に向けて、各コミュニティ協議会と協働で取り組みます。また、来年度の未来ビジョン見直しに向け、これまでのアクションプランを実績を総括し、次期ビジョンへと繋ぎます。	政策1-1-① 行財3-2-②	地域コミュニティ未来ビジョン実践サポートプロジェクト・きらめきサポートプロジェクトなど、地域での取組実施数	11事業		・秋葉区地域コミュニティ未来ビジョン ・きらめきサポートプロジェクト ・感謝の集い	コミュニティ協議会が作成した「秋葉区地域コミュニティ未来ビジョン」の実現、また、地域の課題解決につながる事業を広く募集して主体的な取り組みを促す「きらめきサポートプロジェクト」に、自治協議会と協働で取り組みます。		
2	区民生活課	日常業務の改善を進めるとともに、効率的な業務を行うため、職員提案を促し窓口業務の改善に努め、市民満足度の一層の向上を図ります。	行財1-1-①	窓口アンケートの実施 窓口アンケートの平均点(点)	アンケート平均点 4.47点(R7実績)以上		窓口アンケートの実施	窓口アンケートにより、市民ニーズを把握し市民満足度の向上を図ります。		
3	健康福祉課	子ども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を有効活用し、児童福祉法に基づく秋葉区初の児童館を整備し、子ども達がいずれも自由に利用できる遊びや学びの場を提供します。	政策4-1-① 政策4-1-⑤ 行財1-1-① 行財3-2-②	・児童館設立準備委員会の開催 ・児童館運営協議会の開催	8回 (準備委員会5回・運営協議会3回)		・児童館設置事業	・秋葉区初の児童館を整備するにあたり、利用者である子ども達やその保護者の意見を反映させるため、設立準備委員会を開催し、広く意見を取り入れながら準備を進めていきます。 ・また開設後も運営協議会を開催し、利用者や地域の関係団体の意見を取り入れながら、児童館の適正な運営を図っていきます。		
4	健康福祉課	子ども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域の子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。	政策4-1-⑤ 行財3-2-②	居場所に参加する1回当たりの児童・生徒の平均人数	30人 (合計1,350人)		・アキハ移動式こどもの居場所づくり事業	・各地域のコミュニティ振興協議会、小・中学校等と連携しながら、既存施設を活用し、安心・安全に過ごせる身近な地域での居場所づくりを行い、子どもたちに様々な遊びや学びを提供します。		
5	産業振興課	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	政策5-1-②	Akihaマウンテンレーパークの子ども1日平均利用者数(人)	39人		・里山未来創造事業	里山にある秋葉公園の自然を活かした、子ども達が自由に遊べる場「Akihaマウンテンプレイパーク」を開設します。 ・インフルエンサーやSNSを活用した子育て世代への発信力の強化		
			政策10-1-②	観光案内所「あ！キハ」1日平均利用者数(人)	73人		・アキハ「鉄道物語」	JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携した観光案内所(新津駅東口)を開設します。 ・レンタサイクルの貸し出し ・鉄道資料館との連携企画の実施 ・鉄道に関連した取り組みや事業への支援 ・鉄道サミットの開催		
6	建設課	新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区SDGSTライとして市民と協働で行います。	行財3-2-②	参加人数(人)	400		人と自然が調和した美しい景観の保全	・市民と協働で遊歩道周辺や秋葉公園の除草や刈払いを実施 ・リニューアルコンセプト(案)を基に、地域関係者と一緒に、「にぎわいゾーン」を中心とした活性化や利便性向上に向けた検討を進めていきます。		

《参考》令和8年度 秋葉区組織目標 重点項目に関連する主なSDGsゴール

[illegible]

SDGsと新潟市総合計画との関係

SDGs（持続可能な開発目標）とは

2015年9月開催の「国連持続可能な開発サミット」で193の加盟国の全会一致により採択された、よりよい未来を目指すための2030年までの世界共通の目標「Sustainable Development Goals」の略称です。

SDGsでは、将来世代のことを考えた持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットを掲げ、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。開発途上国だけでなく先進国を含む全ての国で取り組むことが大きな特徴です。

日本においても、行政をはじめ民間事業者や市民団体など多様な主体によって、SDGsの達成に向けた取組が進められています。

SDGsと新潟市総合計画2030との関係

新潟市においても、人口減少や少子高齢化の進行による労働力不足など将来想定される変化・課題を見据えて、持続可能なまちづくりを進めていく必要があり、その目指す方向性は、SDGsで目指すところと一致しています。また、新潟市は令和4（2022）年5月にSDGsの達成に向けて優れた取組を行う自治体として「SDGs未来都市」に選定されました。

これらを踏まえて、現在世代だけでなく将来世代まで心豊かに暮らし続けられる新潟市を実現するとともに、地方自治体としてSDGsの達成に貢献することを念頭に、新潟市総合計画2030を策定しました。

SDGsにおける17の目標



目標1 貧困をなくそう
あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



目標2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



目標3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



目標6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



目標8 働きがいも 経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目標10 人や国の不平等をなくそう
国内及び各国間間の不平等を是正する



目標11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12 つくる責任 つかう責任
持続可能な消費生産形態を確保する



目標13 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



目標15 陸の豊かさを守ろう
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



目標17 パートナリシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS